

# 登山月報



赤兎平



平成28年度 中高年安全登山指導者講習会（西部地区）報告	2
第7回自然保護指導員研修会実施報告	4
第97回 Mountain World	5
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念 —ふるさとの山を登ろう—	6
I F S Cクライミングワールドカップ2016	7
夏山診療所体験記	8
法人名称変更を決議	10
I F S C本部訪問報告	12
JMA、寄贈図書、編集後記	12

# 平成28年度 中高年安全登山指導者講習会（西部地区）報告

平成28年度中高年安全登山指導者講習会（西部地区）が10月8日（土）～10日（祝月）の日程で開催された。紅葉にいい季節と思い設定していたが、岩手国体と日程がかぶってしまい、関係者各位にはご迷惑をおかけした。西部地区は徳島県山岳連盟の主管、山は日本百名山の「剣山」で、机上講習と宿泊は、山中の「ラ・フォーレつるぎ山」を利用した。

受講者は滋賀3、京都3、兵庫2、岡山1、広島2、山口4、島根3、鳥取5、愛媛3、宮崎1、佐賀1、熊本1、鹿児島1と1府12県より30名が参加し、講師・スタッフ28名と合わせて58名となった。

2年前、全日本登山大会を同じ時期に行ったときは、下山後に台風の直撃を受け、何名かが帰宅を1日遅らせるハプニングがあり一部の参加者にはご迷惑をおかけした。今大会は実技当日の朝、小雨に見舞われたが、予定通りのスケジュールで実施できた。午後は雨、ガスともに止み、剣山からの景色を見ていただくこともできた。

初日（9日）は開講式のあと、講演が2題行われた。

**講演1**「山岳ナビゲーションについて」（村越真講師）  
道迷いが山岳事故のトップであり、10代から20代の事故が多い。道迷いを防ぐには地図をしっかりと見て、現在地の把握とコースの先読みをすることが大切であり、その手法などについての講義があった。

**講演2**「山岳遭難のヘリコプターによる救出事例と対応」（猪子裕講師）

救出事例のビデオを交えて山岳遭難における救出の困難さの説明があった。遭難者を上空から見つけるのは難しく、蛍光色のウエアやレスキューシートなどは発見に有効である。また、実物の救出器具を使用しての詳しい説明があった。



猪子講師の講演

2日目（10日）はナビゲーション、および低体温症に対する登山実技を行った。「ラ・フォーレつるぎ山」から見ノ越までバスで移動。

見ノ越で登山開始前に、村越講師から屋外での読図講習のポイントについて説明を受けた。内容は特徴的な地形点で地図・コンパスを使った①先読み、②ルート維持、③現在地の把握の方法などである。行動は、A隊を5班（1班あたり3名～4名）に分け、それぞれの班に徳島岳連の読図指導員1名が付き、村越講師（見ノ越～西島、山頂～西島）、看護師・写真撮影（各1名）と北村講師が同行する体制で実施した。

各班毎に移動し読図指導員から、先読み、ルート維持、現在地の把握について随時問いかけ、その際、正解、不正解を受講者が地図や現地の情報などの根拠を使って言えるように研修を行った。また、村越講師には各班をまわり個別指導をしていただいた。

B班についてもほぼ同様の研修を実施することができた。村越講師と北村講師にはA班と同行する以外の場所で同行していただき、各班をまわり個別指導をしていただいた。



村越講師の講演



村越講師による実技指導

天候は、午前中、小雨でガスがかかる状態であったが読図講習には支障なく順調に実技講習がなされた。頂上での休憩・昼食は、計画では屋外を予定していたが天候が悪く気温も低かった(山頂気温9℃)ため、急遽、頂上ヒュッテの部屋を借り昼食をとった。

午後には雨も止み、頂上からの下りではガスも晴れ、周りの地形が確認できる状況となり、読図講習により幅が出た。頂上では低体温症にならないための予防についての簡単な講習の後、シュラフ、ツェルト、バナー、ペットボトルを利用して実技演習を行った。

ほぼ予定通り全員下山後、バスに乗りし体調不良者等もなく実技講習は終了した。夕方6時からの食事をしながらの情報交換会では、山の話に花が咲いた。

3日目(10日)は講義と研究協議が行われた。

講演に先立ち、村越講師より、昨日の実技講習に対する講評があった。

### 講演3「中高年登山の現状と問題点」(北村憲彦講師)

最近の山岳遭難の概況として、一般的な登山者の事故が多く、中でも道迷いが40%を占めている。年齢別遭難者では中高年(50歳以上)の方で52%となっている。また、単独登山での死亡率が高く、登山者の組織化が重要である。

中高年登山者の問題点として、旅行感覚で登山を楽しむ、他力本願で自立していない登山者の増加が挙げられる。メンバー間の体力・技量差やプライドも問題である。中高年の安全登山対策として、登山の特殊性を意識した体力づくりや環境を考えた登山行動の理解が大切である。登山客から自立した登山者になることが重要である。

研究協議「道迷いを防ぐには」では、登山行動の班を基準とした分科会方式で討議を行った。ブレインストーミング法によりテーマに対するキーワードを出し、グループ化と階層化を行い、模造紙にまとめを行った。その後、各班の発表となった。

各班の発表後、北村講師より講評が行われ閉講式と



剣山下山途中での読図指導



北村講師の講演

なった。

以下は、参加者からの一言(アンケートより)

#### 【講義1】山岳ナビゲーションについて

- 小型のコンパスを見てびっくりしました。大変使いやすいと機能的で気に入りました。
- ナビゲーションを理論的に解説され、大変わかりやすかった。今後、ルートをただ歩くだけでなく、地図読みを合わせ、考えながら歩こうと思います。
- コンパスの持ち方は目から鱗でした。

#### 【講義2】山岳遭難のヘリコプターによる救出事例と対応

- 山岳遭難におけるヘリコプター救助は万能でないことを理解でき、救助要請すべき我々のできることを、すべきことを明確にすることができた
- 救助要請のタイミング、ヘリに発見してもらう方法がよくわかりました。

#### 【講義3】中高年登山の現状と問題点

- 山岳での遭難、特に中高年の問題点がよく理解できた。登山はハイリスクなスポーツであるという意識を一般の方にも伝えていきたい。
- 高度や風による気温の変化から、登山中の生理学に至るまで広い範囲で楽しく教えていただけました。

#### 【実技】

- 小グループ(3人程度)で、とても分かりやすく、実



閉講式(日山協仙石常務理事の講評)

技も見たり聞いたりするだけでなく実際にコンパス、地図を常に利用し、位置関係、地形等が正確につかめてよかった。

○低体温の恐ろしさを知りました。

#### 【研究協議】

○グループで話し合えば、知恵も出るので良かった。

○ブレインストーミングを各会に持ち帰り実践すべきであると感じました。

○ブレインストーミングで他の意見を聞き、自分の考えを進めていくことが重要と思いました。



参加者による記念写真

## 第7回自然保護指導員研修会実施報告

平成28年11月5日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第7回自然保護指導員研修会を、公益社団法人東京都山岳連盟の主管で、参加者35名を集め開催した。今回の研修会は2部構成で、18時に始まった第1部では自然保護指導員制度の説明及び参加4都県の自然保護活動状況の説明、19時30分に始まった第2部では山岳自然に関する講演が行われた。

1部の冒頭に岡田博之都岳連自然保護委員長の主管挨拶が行われ、オーバーユーズやトイレ等の山岳における登山利用の関わる諸問題、シカをはじめとする野生動物との軋轢の問題、リニア新幹線など開発に絡む山岳環境への影響の懸念等々、山岳環境への課題が山積するなか、この研修会を自然保護指導員に携わる方々の知見を一層広める契機となることを期待するとした。

引き続き、日山協自然保護委員長の松隈豊から、主催挨拶を兼ね自然保護指導員制度について説明を行い、現状の自然保護指導員が1277名の登録で、ここ数年来減少傾向にある点を挙げ、指導員制度の意義を訴えた。そして、「保全活動など額に汗する実行動に率先参加」する行動重点型を「期待する指導員像」と位置づけ、行動を通して社会貢献に少しでも寄与しようとする気概を持ち、加盟各団体の自然保護委員会の活動には積極参加し、山岳自然保護における先兵役として活躍されること願うとした。最後に配布の資料「自然保護指導員のための基礎知識について」の持ち帰り後の復習を促した。

引き続き、埼玉、千葉、東京、神奈川の各自然保護委員会から各地域の活動概要が説明され、自然保護活動内容への理解を深めた。

第2部では、東京農業大学助教 栗田和弥氏を招き、「日本の美しい山岳自然環境の復元と保護～巻機山40年間の活動から学ぶ」と題した巻機山ボランティア活動を題材にした講演を聴講した。

#### (講演要旨)

巻機山での自然保護活動は1977年に始められ、ボランティアレベルとして国内第3例目の活動となった。巻機山では1955年ころから登山者の増加で植生破壊が発生し、裸地の拡大、表土流出、洗掘溝の発達など山岳環境の荒廃を導きだした。ビッシリと列をなした巻機山への登山者の当時の様子が写真に残っている。特に、残雪期などに、いわゆる巻機山の特色の雪田草原と呼ばれ草地に踏み込んでしまうなどしてできた経路が複線化し、植生の減退を招き、露出した地面が風雨で浸食され、土砂が流出しガレ場や溝となって山肌が荒れてしまった。更に、流出した土砂が池塘を埋めてしまう事態を招いた。登山道の修復作業から池塘の復元作業に至るまで、40年にも亘って活動が行われてきた。池塘の復元作業は巻機山が日本で最初に試みられたもの。これらの活動の成果は公益財団法人日本ナショナルトラスト、巻機山景観ボランティアズ、東京農業大学造園科学化自然環境保全研究室が連携して「巻機山 景観と植生の復元40年の成果」に講師などが著者となって出版物に纏められている。

(自然保護委員長 松隈 豊)



## 第97回 Mountain World

### アクション・ディレクトから25年

池田常道

世界初のXI級(5.14d/9a)、アクション・ディレクトがヴォルフガング・ギュリッヒによって拓かれてから四半世紀が経った。

ドイツのフランケンユーラにある比較的小さな石灰岩塊、ヴァルトコプフの張り出し(135度)を登るこのルートは、1980年代にミラン・ジコラがボルトを設置してトライを始め、友人のギュリッヒに譲ったものだった。ギュリッヒは、よりダイレクトなラインからスタートし、指2本しかかからないポケットへの大胆なランジを含む16手のシークエンスを完成させた。1991年9月14日のことである。

その年の初めにパタゴニアのパイネ中央岩塔遠征から帰ったギュリッヒは、ポケットの連続するこのライン克服に向けて、試登とキャンパスボードでのトレーニングを繰り返した。

ギュリッヒは1960年10月24日、ルートヴィヒスハーフェンに生まれ、13歳のときに南プファルツで岩登りを始めた。当初から彼の地のハードルートを再登してその名を知られるようになり、東ドイツのエルベ砂岩地帯やアメリカのシャワンガンクス、ヨセミテなど各地のトップルートを手に入れた。1983年『アルピン』誌のインタビュー(岩と雪104号に訳出)でX級時代の到来を予言したギュリッヒは、自ら一步一步グレードの限界を押し上げていった。

84年 カナール・イム・リュッケン X-(5.13d/8b)。

85年 パンクス・イン・ザ・ジム X(5.14a/8b+)。

86年 アマデウス・シュヴァルツェネッガー X。

87年 ウォールストリート XI-(5.14b/8c)。

91年 アクション・ディレクト XI(5.14d/9a)。

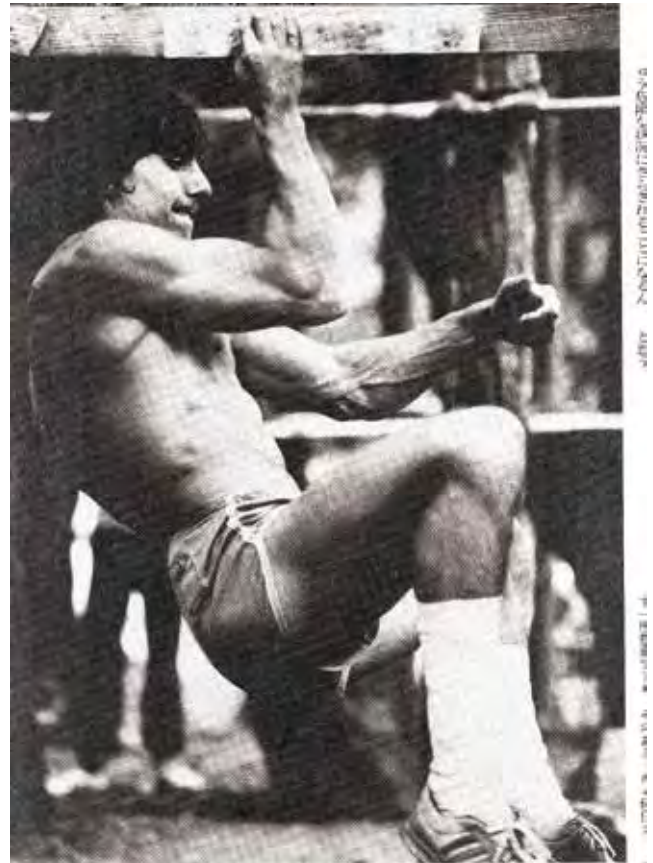
88年から91年の間はカラコルムやパタゴニアへの遠征があったため、世界初の8cはベン・ムーン(英)のハッブルに譲ったが、これ以外のすべてのステップはギュリッヒが実現した。

初めてのカラコルム遠征は87年、6000mの高さでフリークライミングを実践すべく、クルト・アルベルトらと組んで行われた。グレート・トランゴでは失敗したものの、ネームレス・タワーで、前年登られたユーゴスラヴィア・ルートオールフリーVIII+で登った。翌

年もトランゴを目ざし、前年に目を付けていた新しいラインをフリーで試みたが、悪天候もあって惜しくも4か所のエイドを残した(IX、A2)。このイターナル・フレームはその後さまざまなクライマーが繰り返しフリーで挑んだ末、2009年にギュリッヒと同じドイツのフーバー兄弟によって達成された。

パイネ中央岩塔東壁は90/91年シーズンに、やはりアルベルトとのコンビで試みられた。ライダーズ・オン・ザ・ストームと名付けられたこのルートはIX、A3だったが、近年やはり完全フリー化の試みが続けられている。つい最近もメイヤン・スミス=ゴバトとイネス・パペルトの女性ペアが上部クラックをフリー化し、エイドピッチを迂回するバリエーションを拓いた。

アクション・ディレクトはこの25年間に18回しか再登されていない。95年のアレクサンダー・アドラーに始まり、2005年には日本の小山田大が第7登、11手のあらたなシークエンスで成功した。スポーツクライミングの前線はいまや5.15台まで伸びているが、金字塔としての価値は損なわれることはない。アクション・ディレクトから1年足らず、ギュリッヒは92年8月29日に自動車事故で亡くなった。享年31。



ヨセミテでトレーニングに励むギュリッヒ(1986年) 岩と雪104号より

## 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

福井県・赤兎山(あかうさぎやま 1,628.7m)

石川・福井県境の谷峠から杉峠までの稜線を加越国境と言い、赤兎山はその山域内の東に位置する。その山容は名前のおお、なだらかな優しい形をしている。頂上から避難小屋までの赤兎平と呼ばれる高層湿原帯の高山植物、そしてなんとと言っても正面に見る白山・別山・三ノ峰、振り返ると百名山の荒島岳(1523.5m)や福井県に山域を有する山として最高峰の経ヶ岳(1625.2m)等が登山者の心を魅了する。

子供から大人、そして家族連れまで多くの方々に登っていただきたい「福井県の山」である。

登山道へは車で国道157号線より小原集落を抜け、小原林道入り口で入山料(大人1人300円)を支払い、20分さらに走ると登り口の駐車場に着く。小原峠までの登山道は白山を開山した泰澄大師(682～767)がたどった越前禅定道である。小原峠は六宿目の伏拝(ふせおがみ)である。途中幾つかの小さな沢を横断。峠の近くまで水があり、かつての修験僧も暑い夏には喉を潤していたに違いない。登り口から峠までは40分。

峠は北に大長山(1671.4m)、北東に西俣谷川を下って石川県側の市ノ瀬へ(越前禅定道)、そして赤兎山へは南側の登山道に行く。ここからブナ林の急登を登る。途中ロープが張られていて木の根に足を置きながら滑りやすい急登を越すと、やがて大船山への分岐点に出る。

大船山を越え経ヶ岳への稜線まで続くルートと、これから登る赤兎山山頂、そして白山に続く三ノ峰頂上までは、福井山岳会(福井県山岳連盟所属)が登山道整備にあたっている。

赤兎山山頂まで小原峠から40分。大船山分岐を抜ける頃左側に霊峰白山の勇姿、振り返ると大長山のなだらかな山頂が見える。やがて頂上に着くと大勢の登山客が方向板を見ながら山頂からのパノラマを堪能していた。

この山の人気は石川県はもちろん、遠く関西・中京地区からの登山者もいる。頂上でお会いした方々が「福井の山幾つも登ったよ。」と言われると、「地方の山はその地元の山岳会や森林組合の方々のおかげ(登山道整備等)で皆さん安全に登山出来るのですよ。征服したのでなく、登らせてもらったと感謝してください。」と、つい言葉に出てしまうのは、草刈り機と燃料を持って登山道整備にあたった経験を持つ者だからで



赤兎平

しょうか？

頂上からは東側にゆっくり木の階段を下ると赤兎平の高層湿原地帯になり、避難小屋までの間に池塘があり赤池にはモウセンゴケやイワイチョウなどの植物がある。6月にはニッコウキスゲ・ササユリ、秋にはナナカマドの赤色に高山植物が登山者を楽しませてくれる。避難小屋までは20分。

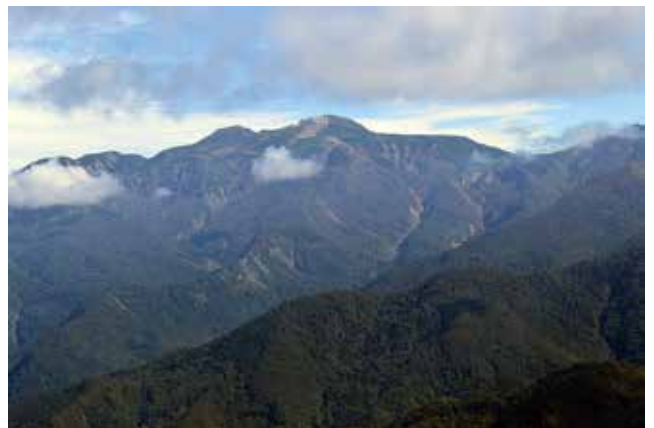
赤い屋根の避難小屋はこのコースが整備された福井国体(1943年)に建てられ、地元山岳会が維持管理に尽力している。その小屋の裏側の小高い草原の先には見事な展望台があり、正面の大スクリーンの中に霊峰白山の勇姿・その隣りに続く別山・三ノ峰と美濃禅定道の稜線が登山者の心を魅了する。

朝、登り口を出発し、昼食をこの展望台で取る登山者はきっと生涯の思い出になるに違いない。

他にも登っていただきたい沢山の素晴らしい福井県の山々がありますが、皆さんに気軽に楽しんでいただける山として「赤兎山」を紹介させていただきました。

福井県には200m低山から2,000mの山まであり、日帰りで登れる山々(1,200～1,600m)が県境を囲んでおり、その自然の恩恵は恵みの水となり、広く大地を潤してくれます。この豊かな自然を後生に残すためにも、沢山の皆さんに故郷の山に登っていただき、大切な自然を守り続けていただきたいと願います。

(福井県山岳連盟理事長 渋谷好司)



避難小屋裏からの白山

## IFSCクライミングワールドカップ2016

### 3種目総合ランキング 野口啓代が銀メダル、藤井快が銅メダル

11月26日(土)～27日(日)のスロベニア・クラニ大会で、今シーズンのワールドカップが全て終了したのを受け、ボルダリング、リード、スピードの総合成績で争う「コンバインドランキング」の表彰が合わせて行われた。

日本勢では、ボルダリングとリードの2種目に参戦した野口啓代選手(茨城岳連)が2位、藤井快選手(東京都岳連)が3位に入り、表彰台上がった。

野口選手は、ボルダリングの重慶大会で2位、リードのクラニ大会で2位と、ボルダリング、リード両方で表彰台上がる活躍を見せ、3種目総合で2位。

藤井選手は、ボルダリングでバイル、ナビムンバイの2大会で優勝。リードでもヴィラルール大会で8位に入り、3種目総合で3位に入った。

その他にも、男女とも10位以内に4名の日本選手がランクインしており、日本代表のボルダリング、リード料種目での実力の高さがうかがえる結果となった。

東京2020オリンピック大会では、それぞれの選手が3種目全てで競い、総合成績で争うルールとなることが予定されており、現在のところ複数種目で参戦する選手はまだまだ少ないものの、オリンピックに向けコンバインドランキングはさらに注目されることになりそうだ。

## IFSCクライミングワールドカップ2016 オーバーオールランキング

### 【女子】

- 1位 ヤンヤ・ガルンブレット(スロベニア)
- 2位 野口啓代(日本)
- 3位 ジェシカ・ピルツ(オーストリア)
- 5位 小林由佳(日本)
- 8位 小武芽生(日本)
- 9位 尾上 彩(日本)

### 【男子】

- 1位 ショーン・マッコール(カナダ)
- 2位 ヤコブ・シューベルト(オーストリア)
- 3位 藤井 快(日本)
- 5位 樋口純裕(日本)
- 7位 島谷尚季(日本)
- 10位 檜崎智亜(日本)

11月26日(土)～27日(日)にスロベニア・クラニで行われたリード競技のワールドカップシリーズ最終戦で、野口啓代選手が銀メダルを獲得した。

女子は、普段ボルダリングのワールドカップを中心に参戦している野口選手が、前戦の中国・アモイ大会に続く自身2戦目のリードワールドカップで堂々2位。リードでもトップレベルの実力を改めて知らしめた。小林由佳選手(茨城岳連)は、準決勝より1つ順位を上げて7位。

男子は波田悠貴選手(埼玉岳連)が自身初のワールドカップ決勝進出を果たし、8位でシーズンを締めくくった。



オーバーオールランキング女子表彰台



オーバーオールランキング男子表彰台



クラニWC女子リード表彰台

## 夏山診療所体験記

先日2014年度より登録させていただいていた登山医学会のコースで、無事に認定国際山岳看護師の資格を取得させていただくことができました。普段はフルタイムでの病院勤務のため、自分の休暇を利用して少しでも山岳医療に関わればと思っていたところ、登山医学会でご一緒させていただいている先生方のご厚意で、槍ヶ岳診療所に3日間、富士山衛生センターに2日間お邪魔させていただくことができました。どちらの診療所でもとても貴重な体験をさせていただきましたが、今回は最初に伺った槍ヶ岳診療所での体験について簡単に書かせていただきます。

東京慈恵医科大学が開所されている槍ヶ岳診療所は、昭和25年に槍ヶ岳山荘に併設して開所された歴史のある診療所です。アプローチは上高地ルート、新穂高温泉ルート、表銀座ルートなど色々ありますが、今回は登ったことのない新穂高温泉ルートで入所することにしました。途中何か所か沢を越え、高山植物のお花畑に癒され、飛騨乗越手前に設置されている救急箱の中身が気になりつつもお昼過ぎには診療所に到着。ドキドキしながら診療所の扉を開けると、すでに到着されている先生や看護師さん達が笑顔で迎えてくださり、一気に緊張が解けました。槍ヶ岳診療所はボランティアのスタッフで成り立っており、それぞれが都合のよい日程で入所されるため、毎日メンバーが入れ替わり、新たな出会いが沢山あるのが良いなと思いました。皆さん山好きだけあって、個性的で愉快な方ばかりです。

私が入所させていただいた日は平日でお天気も不安定だったため、登山者の数も夏にしては少ないかなという印象でした。日中は登山者の皆さんも行動されているためか、患者さんは朝と夕方に比較的多く来所されました。軽度の高山病の方が多く、ほとんどの方が頭痛や胃部不快感などを訴えておられました。皆さん



先生に診療してもらおうとやはり安心するようで、それだけで少し元気になれるようでしたが、たいいてい場合は頭痛薬や吐き気止めをお渡しして様子を見ていただくという対応でした。ほとんどの軽症の高山病は、呼吸の仕方に気を付けたり高度を下げれば改善することが多いため、必ずしも薬が必要ではないのかなと疑問に思い質問させていただいたところ、槍ヶ岳診療所では初診料として2,000円いただいているため、薬なりをもらった方が患者さんも満足されるのではないかと思うとの回答をいただきました。確かに一理あるし、色々な考え方があって良いのかなと思いました。

高山病の他には、耳に虫が入った方、虫刺されによるアレルギー症状の出た方などがいらっしゃいました。中国や韓国など海外からの登山者の方も時折来所され、留学時代に学んだ英語が少しですが生かされたのも嬉しかったです。

2日目の夕方には、軽症の方がほとんどの中、中等度の高山病の高校山岳部の生徒さんが来所されました。標高の低い殺生ヒュッテまで降りた方が良いということで、患者さんの荷物を持って殺生ヒュッテまで同行するという経験もさせていただき、普段からの山の経験が役立った一幕でした。次の日元気に登頂している患者さんに山頂で再会でき、とても嬉しかったです。

患者さんが少ない時間帯には、みんなで診療所の掃除や整理整頓をしたり、医療器具の消毒をしたり、時には小屋のお手伝いなんてこともあるようです。山の上では医療器具の消毒は昔ながらの煮沸消毒や火炎滅菌。一部スタッフははるか昔病院でも実践していたとのこと慣れた手つきでしたが、私は初めての体験でとても新鮮でした。

また、交代で槍ヶ岳の山頂まで足を伸ばす…なんてことも出来、3日間の滞在の中で4回も登頂してしま

中米最高峰に登り、マヤ遺跡やカリブ海を訪れる“中米の旅”決定版

**中米最高峰タムルコ(4,220m)登頂と  
密林に眠るティカル遺跡満喫とカリブ海 11日間**

発着地

東京

出発日

3/17(金)

旅行代金

¥660,000

※燃油サーチャージ(2016年11月10日現在)は不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコド保護協会

**ALPINE ツアー サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



いました。初日は初めてのメンバーの皆さんと一緒に、2日目の朝は同じ登山医学会の看護師さんと小槍、ひ孫槍、孫槍経由のバリエーションルートから、夕方には運良く影槍にブロッケン現象という神秘的な光景が、最終日は槍ヶ岳山頂からの日の出と様々な山の表情を楽しむことができました。これも槍ヶ岳の直下にある診療所だからこそその醍醐味だだと思います。

今回の滞在中は、診療所内にある快適な寝床や、小屋のスタッフさんが提供してくださる美味しい食事、素敵な仲間達との出会いなど本当に快適に過ごすことができました。これも長年に渡って槍ヶ岳山荘さんと慈恵医科大学の方々が築いてきた関係の賜物なのだろうと思います。また会話の随所で、診療所の歴史に関するお話なども伺うことができ、色々な方々の努力や支えがあってこそ現在の診療所があるのだと感じました。山荘のスタッフの方々や一緒に働かせていただいた皆さんには本当にお世話になり、感謝の気持ちで一杯です。今回は長い歴史の中のほんの一瞬に関わらせていただいただけですが、次回また自分の知識もアップグレードしてお邪魔させていただけたらと思います。

(茅ヶ崎山岳会 重盛ゆき子)



### スポーツクライミングの競技会場決定!!

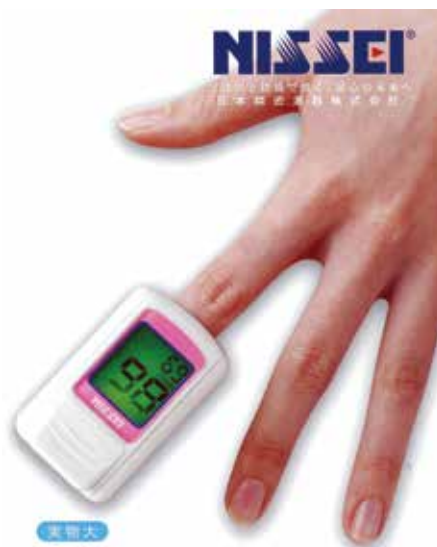
12月7日(水)、スイス・ローザンヌで開催されていたIOC理事会で、東京2020オリンピック大会の追加競技に選ばれたスポーツクライミングの競技会場が、東京都江東区の青海アーバンスポーツ会場になることが正式に決定された。発表によるとスケートボードと同会場となる。

開催都市が推薦できる追加競技の経費は、開催都市側が負担しなければならないので、経費削減の面から観客席などは競技日程を調整して、2競技で併用することになるのであろう。

## 第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 おめでとうございます。

弊社ではパルスオキシメータ（経皮的動脈血酸素飽和度計）“パルスフィット BO-600”を**格安**の値段で提供させて頂いております。ご希望の方は、下記までお申込み下さい。

1.8万円!!  
ポッキリ



田中産業株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-16-3 電話：03-3814-7181

# 法人名称変更を決議

11月13日(日)に東京・渋谷TKPカンファレンスセンターで開催された平成28年度理事会(第3回)及び臨時総会にて、本協会の法人名称を平成29年度より「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」(英文名: Japan Mountaineering & Sport Climbing Association)と改称することが決議された。

## 平成28年度理事会(第3回)報告

先ず臨時総会に先立ち、10時30分から平成28年度理事会(第3回)が開催された。

小野寺事務局長より理事24名(欠席1名)、監事3名の出席状況が報告され、理事会開催の定足数を満たしていることが宣言された。

開会に先立ち八木原会長から「スポーツクライミングが東京2020五輪大会の追加競技として正式に決定され、祝日「山の日」が施行されるなど忙しい中、平成28年度上期が終了した。」と挨拶。

次いで、定款に従って議長及び議事録署名人を選出して議事に入った。

### 1. 議事

(1) 議案第1号 平成29年度事業及び予算編成方針について

小野寺事務局長より資料に基づいて提案説明を行い、一字訂正で提案とおり賛成24で承認された。

(2) 議案第2号 規程・規則の一部改正について

①「組織・管理運営規程」の一部改正について

尾形専務理事から8月27日の臨時理事会で決議された組織改編に伴う「組織・管理運営規程」の改訂について提案説明をし、議場に諮られた

質疑応答の後、議案第2号①は、一部訂正して、賛成24で承認された。

②「国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則」の一部改正について

森下競技部長より提案説明があり、議案第2号②は、異議なく賛成24で承認された。

③「クライミング競技審判員規程」の一部改正について

森下競技部長より提案説明があり、議案第2号③は、異議なく賛成24で承認された。

④「クライミング公認ルートセッター規程」の一部改正について

森下競技部長より提案説明があり、1誤字を訂正し



て、賛成24で承認された。

(3) 議案第3号 公益社団法人日本山岳協会の定款の一部改正について

①法人名称変更に伴う定款変更について

尾形専務理事から8月27日の臨時理事会では名称を「日本山岳スポーツクライミング協会」に変更することを決議したが、本日の臨時総会に諮る名称変更は、「日本山岳・スポーツクライミング協会」と「・」を入れた名称にしたいと提案があった。

「・」があるかないかの意味の違いについて北村理事から補足説明があり、質疑応答があった。

議案第3号①は、賛成21、反対3で承認された。

②定時総会開催に関する定款変更について

小野寺事務局長より、定時総会の開催を毎事業年度終了後2箇月以内から3箇月以内に変更したい旨、提案説明があり、議案第3号②は、異議なく賛成24で承認された。

以上で議事は終了し、報告事項に入った。

### 2. 報告

(1) 平成28年度上期事業・会計報告及び中間監査報告について

小野寺事務局長から上期事業報告、相良財政担当理事から上期会計報告、内藤監事から中間監査報告がそれぞれ資料に基づいて行われた。

(2) 平成28年度上期山岳共済会報告について

尾形専務理事から上期山岳共済の事業報告及び会計報告が資料に基づいて行われた。平成28年度上期の山岳共済会の加入者数は、54,566人で前年比69人減との事であった。

(3) 業務執行理事の職務執行報告について

13名の業務執行理事が各自の報告書に基づいて職

務執行を報告した。

(4) 第55回全日本登山大会・島根大会報告について

仙石常務理事から30都道府県から160名の参加を得て盛大に開催されたことが報告された。

(5) 第71回岩手国体山岳競技大会報告について

小野寺事務局長より資料の総合成績について一部訂正があった。

(6) I F S C世界選手権、アジアユース選手権報告について

森下競技部長より資料に基づき報告があり、アジアでは敵なしとの事であった。

以上をもって全ての議事を終了して、12時40分閉会した。

## 平成28年度臨時総会報告

理事会に引き続いて13時30分から臨時総会が開催された。

小野寺事務局長より正会員出席者55名、委任者3名、欠席者2名、同席者(顧問2名、監事3名、委員長3名、事務局員1名)の出席状況が報告され、総会開催の定足数が満たしていることを宣言された。

次いで八木原会長が、臨時総会を招集することになった経緯として、本協会を取り巻く環境の激変と将来の協会運営等に対処していくために組織体制の改革や法人名称の変更などに迫られている現況を説明された。

会長挨拶の後、定款に則り議長、議事録署名人(議長、森下健七郎、滝田博之)を選出して議事に入った。

### 1. 報告

(1) 平成28年度上期事業・会計報告及び中間監査報告について

小野寺事務局長から上期事業報告、相良財政担当理事から上期会計報告、内藤監事から中間監査報告がそれぞれ資料に基づいて行われた。

(2) 平成28年度上期山岳共済会報告について

尾形専務理事(山岳共済会会長)から上期山岳共済の事業報告及び会計報告が資料に基づいて行われた。

### 2. 議事

(1) 議案第1号 公益社団法人日本山岳協会の定款一部改正について

①法人名称変更に伴う定款変更について

小野寺事務局長から資料に基づいて提案説明を行った。各加盟団体及び『登山月報』やHPでのパブリックコメントで既報した名称変更案に「・」を入れることになった経緯を北村理事から補足説明して頂いた。

56年もの長い間親しんできた法人名称の変更であ

るからそれぞれの思いがあり、賛成、反対の激しい論戦が交わされた。

先ず、近畿地区山岳連盟を代表して兵庫正会員が書面をもって反対意見を述べた。

次いで近畿2府4県と長野、岐阜の正会員から順次反対意見が述べられた。

それに対して栃木、沖縄、福島、高体連の正会員からは賛成意見が述べられた。

議論噴出する中で、最後に賛成・反対の意見が多く出ており、重要案件でもあるので、継続審議にしてはどうか、との提案がなされた。

これに対してスポーツクライミングを統括する中央競技団体としては、東京2020五輪大会は何か何でも成功させなければならない。会長挨拶の趣旨にもあったように、今こそ商いの窓口を増やし、屋号を変えてでも打って出るべき時期であり、先延ばしすることなく、決めて頂きたいとの意見もあって、議長は裁決を宣言した。

採決の結果、議案第1号①の法人名称「公益社団法人日本山岳協会」を「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」に変更し、平成29年4月1日から施行することについて、賛成48(賛成45、委任3)、反対10で承認可決された。

②定時総会開催に関する定款変更について

小野寺事務局長が資料に基づき説明し、提案を行った。

議案第1号②は、定時総会の開催を現行の「毎事業年度終了後2か月以内に1回開催する。」を「毎事業年度終了後3か月以内に1回開催する。」に変更し、平成29年4月1日から施行することについて、賛成58(賛成55、議委任3)、反対0で、承認可決された。

以上をもって全ての議事を終了して、15時30分閉会した。

### 【お詫びと訂正】

前号(572号)4頁の国体山岳競技の総合成績に間違いがありました。お詫びして訂正します。

#### 総合成績

天皇杯 (男女総合)		皇后杯 (女子総合)	
1位	埼玉県	1位	長崎県
2位	茨城県	2位	埼玉県
3位	長崎県	3位	茨城県
4位	千葉県	4位	鳥取県
5位	大阪府	5位	山口県
6位	岩手県	6位	東京都
6位	鳥取県	7位	宮城県
8位	東京都	7位	千葉県
		7位	大阪府

## IFSC本部訪問報告

今年のUIAA理事会・総会は、10月12日～15日にイタリアのブレッセノーネで開催された。当初から総会終了後にIFSCの本部を表敬する予定で日程を組んだ。

10月17日(月)、UIAA総会を後にして同じくイタリアのトリノに向かった。事前にアポイントを取っており、IFSC本部には11時30分に訪問した。

本部は6月に引っ越してここに来たとのことで、町の中心部に近く、便利なところにあった。ビルの1階(日本流2階)に事務所があり、部屋は3つ、合計すると今の日山協の事務所の1.5倍程度である。

応対は管理担当理事のフランセスカ(Francesca)、そして経理担当副会長のピエールヘンリー(Pierre-Henri Paillason)というフランス人であった。彼は常駐している訳ではなく、今回の会談のためにわざわざ来たとのこと。国境近くに住んでおり、車で2～3時間と言っていた。マルコ会長が世界大学選手権大会で中国に行っており、会えないため、彼が代理で会見してくれた。

スイスにも事務所があるが、人件費・物価が高く、人もあまりおけないとのこと。

それほど長い時間ではなかったが、意見交換を行った。登山の事、スポーツクライミングの事など広汎に昨今の事情について話し合った。日本は、というより日山協は是非登山とスポーツクライミングを同時に統括してほしい。同時に行うことによって相互に刺激し合い、両方発展していくはずだ。協会の名称変更も他の国に先駆けて行い、模範となってほしいとのことであった。日本の事情、例えば大会ごとに施設を作っ

ては壊して永久的な施設が少なく経費がかかることを説明した。フランスはシャモニに施設があり、同様の事を行っているとは言っていたが、固定した施設がなかなか見つけにくいことが、どうも理解してもらえなかったと思う。フランスはモーリスエルゾグやピエールマゾーがスポーツ大臣を歴任しており、伝統的に文化として山に理解があり、スポーツクライミングにも理解があるとは言っていた。さらに映像を意識しなくてはいけない、わかり易い競技にしなくてはいけないとも言っていた。スピードはかなりわかり易く順位がつくが、ボルダリングは一般の人には相対的に分かりにくいので何とかしなくてはいけないとも言っていた。(小野寺 齋)



IFSC本部のビルの前にて



平成28年度(28年11月)  
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成28年11月1日(火)  
連絡部会：18時～20時15分  
常務理事会：20時18分～21時25分  
場所 岸記念体育会館・4F特別会議室  
出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、西内、森下、京オ、瀧  
本、仙石、水島、中瀬各常務理事、相良  
財政、西原競技運営、小日向選手強化、  
澤田国際各委員長、中島監事  
委任 小野寺常務理事、増山理事、山  
本・松隈・角田各委員長  
(22名中16名出席)

### 1. 議事

- (1)平成28年度10月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)  
事前送付で確認されており、承認。
- (2)平成29年度事業計画及び予算編成方針について  
尾形専務理事から、配布資料の一部訂正(案)を説明。  
登山事業、競技事業等の加筆訂正があり、修正後再度メールにて回議することで承認。
- (3)規程・規則の改定(組織・管理運営規程、国体規則)について  
尾形専務理事から「組織・管理運営規程」、森下競技部長から「国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則」、「クライミング競技審判規程」、「クライミング公認ルートセッター規程」の一部改正(案)が説明され、一部加筆訂正して理事会に提案することを



承認。

- (4)理事会次第、臨時総会次第について  
尾形専務理事から理事会及び臨時総会の次第について説明。

以下の質疑があった後、理事会議案第3号、総会議案第1号の定款の一部改正については、①法人名称変更に伴う定款変更②定時総会開催に関する定款変更、として議案書を作成することで承認。

- 高橋：会計処理の問題だけで定時総会開催を毎事業年度終了後3箇月以内と軽々に定款変更してよいのか、慎重に考慮すべきではないか。

中島：定時総会開催時期の変更理由を決算・監査の支障のみではなく、関連団体の開催時期等も参考にして高尚な理由付けできないか。

## 2. 報告事項

- (1)平成28年度上期事業、会計及び中間監査報告について

尾形専務理事から資料に基づき平成28年度上期事業を報告。資料の一部加筆訂正が指摘され、修正。

相良財政委員長から資料に基づき平成28年度上期会計(貸借対照表、正味財産増減計算書、予算対比正味財産増減計算書内訳表、財産目録、財務諸表に対する注記、附属明細書)を報告。資料の一部訂正が指摘され修正。

中島監事から10月28日に行われた中間会計監査について監査所見に基づいて報告された。

- (2)平成28年度上期山岳共済会報告  
尾形専務理事から資料に基づき平成28年度上期の事業及び収支報告がなされた。

- (3)第71回岩手国体山岳競技報告(競技部)  
西原委員長より資料に基づき第71回岩手国体山岳競技大会について報告された。次いで主管された岩手県山岳協会高橋会長から地元側の報告が補足された。

- (4)パブリックコメントについて(続き)  
尾形専務理事から、9月12日から30日間のパブリックコメント募集は、賛成1、反対3、別名称の提案1の計5件だったことが報告された。

- (5)毎日スポーツ人賞の推薦について  
世界選手権の男子ボルダリングで金メダルを獲った檜崎智亜選手を「新人賞」に推薦したことが報告された。

- (6)アジアユース選手権報告  
小日向委員長から資料に基づいて報告。金メダル9、銀メダル6、銅メダル2の計17個のメダル獲得が報告された。また、東京2020五輪に照準を合わせた中国が欧州からコーチを招聘して選手強化を図り、表彰台に台頭してきているとの報告もあった。

- (7)日体協指導者制度改定案抜粋報告  
瀧本常務理事から資料に基づき平成30年4月から実施される日体協公認スポーツ指導者制度の改定案について報告があった。

- (8)第77回栃木国体正規視察報告、第73回福井国体準備状況打合せ報告  
西原委員長から10月13日に行われた

第77回栃木国体正規視察報告と10月27日に行われた第73回福井国体準備状況打合せの報告があった。

- (9)新春懇談会特別表彰の候補者推薦依頼  
尾形専務理事から候補者推薦依頼書を10月27日に発送した旨報告があった。

- (10)パラクライミング日本選手権2017  
森下競技部長から10月常務理事会で承認された標記大会の開催要項に一部変更が生じたと報告があった。(アイマスク着用はB1カテゴリーのみとなった。)

## 3. 指導員・審判員 検定結果報告

講習会名：A級主任検定員養成講習会  
合格者：2名

開催日時：2016年10月1～2日

開催地：長崎県

寺崎良夫(福岡)、田中雄兒(福岡)以上、2名の主任検定員を承認。

## 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)広島・比婆山国際スカイライン後援名義使用(広島県山岳連盟)

- (2)映画「笠置ロック」の後援名義使用(株式会社シネマズギックス)

- (3)映画「ラスト・ホールド」の後援名義使用(株式会社松竹)  
上記、3件の申請を承認。

## 5. 専門委員会動静

10月(10月6日～10月31日)

### 〔報告〕

- (1)国際委員会

10月11日(火) 出席6名、委任8名

- ア) 報告

- ・マカルーノカンチ初登頂60周年記念式典(ネパール)

JAC東海支部隊 尾崎祐一氏、田中元氏 参加予定

- ・ロシア女性 F e a. (Irina) より来夏エルブルース登山へのお誘いロシアから F e s 日本開催のお礼の意味で、プレゼン資料が送られてきた。一般的な南面からの登山、あまり人の入らない北面から、北面から南面への縦走、の3パターンが提案されている。期間は、来年5月～8月。国際委員関係で検討して貰いたい。

- ・2017年6月総会兼海登研の会場について

キャパ80人程度、6ヶ月前に予約可能、アクセス良の条件で7施設が見つかる。一番早く(11/28)確保できる可能性のある立川市の「たましんR I S U R Uホール」をもう一度調べて、よければ確保努力をする。来月確認。

### イ) 協議

1. 第3回海外登山懇談会  
11/17(木) オリゼン(セー304)  
「私の海外の登山・山スキーの旅 ―山と仕事と―」 坂上光恵氏  
「子連れだからこそ海外へ! 家族で楽しむ海外クライミング」山岸尚将氏
2. 国内外に向けてのHP案について  
国内向け「海外からの案内」「海外登山地最新情報」「海外登山の手続きガイド」

外国向け「About Japanese Mountains」「Mountain Area Information」

- ・「海外登山の手続きガイド」について  
キリマンジャロの調査データを確認。旅行案内の部分や装備表は不要では。「登山のルール」の部分が欲しい部分。全体を分かり易くする意味で内容を絞った方がいい。おおよそ例年の手続きの流れを紹介して、あとは公式な現地サイトにリンクする、という方法でいい、などの意見あり。

- ・「About Japanese Mountains」について

a. 日本の山の概要紹介-エリアの紹介、標高、植生

b. 気候と装備-南北の気候特徴、日本海側と太平洋側の積雪特徴、四季による変化、それに合わせた装備について

c. 入山手続き-登山料、国立公園入園料は基本的に不要、登山届を提出して入山、一部の登山条例の紹介

d. 登山中の注意点-山小屋の利用方法、キャンプ、トイレ・ゴミ、危険な動植物(熊、スズメバチ、エキノコックス、マダニ)

e. 緊急時の対処と保険-連絡は警察へ、検索費用がかかるので保険加入の推奨

f. 計画書の提出-外国人向けのフォーマットの紹介、各登山口や警察署に提出(提出方法)

上記の項目立てと内容を今後も検討する。海外の、日本の登山ガイド本を参考にしてみてもいいのでは(ロンリープラネットとか)との意見あり。

f. の外国人向け計画書フォーマットは、通常の内容に加えて、国籍、パスポートNo. 日本での連絡先の3項目を加える。そして日英の併記で、外国人にも日本人にも読めるようにする。

- (2)自然保護委員会

10月20日(木) 出席16名

- ア) 議事録確認

1. ライチョウサミット(第17回ライチョウ会議)10月14～15日大町市文化会館(松隈、小林出席)

2. 小林委員より報告 13日: サミットの名を掲げ一般にアピール。(大町市長、燕山社社長らによるパネルディスカッション) 15日: 専門家会議

- イ) 報告

1. 第5回関東地区自然保護交流会(濱田) 10月1日～2日 44名参加

1日: 鋸山の植生について。各都県の活動報告

2日: 3コースに分かれてのハイキング

- ウ) 審議

1. 第5回関東地区自然保護交流会の反省について

2日目のハイキングの集合出発場所の情報が上手く伝わらなかった。出発の遅れ発生

各県の活動報告は必要?

→関東ブロックとしての交流を通じて各県の事情を知ることが目的

各都県の持ち回りに意味があり、総会の関東ブロックへの展開の役割もある。生の声が聞けることがメリット。今後の開催場所について討議

- 東京都(大島)の提案あり。
2. 第7回(平成28年度)自然保護指導員研修会について  
11月5日(土) 国立オリンピック記念青少年センター 18時~21時30分  
プログラム5の蒲池都岳連委員の発表は本人の都合によりカットになった。  
参加予定都県:東京、神奈川、埼玉、千葉
- エ) 情報交換・連絡事項
1. JOCスポーツ環境委員会の第12回スポーツと環境。地域セミナー  
11月18日 於:都庁都民ホール(松隈、岩崎、猪狩3名出席)
2. 小島委員からの提案
- ①ハセツネCUP日本山岳耐久レースに出場しての意見  
ヘッドランプの照度が高すぎる、クマ鈴をつけて走る事等自然環境に与える影響はどのようなものだろうか? 環境に対しての配慮が足りないのではないか。  
集団行動の行動ルール、ガイドラインが必要。自然保護の立場から何が出来るかを中央から発信することが必要では。
- ②携帯トイレの普及・販売推進について  
ルートがないか。皆さんからの情報がほしい。  
総会分科会の報告書提出依頼。A4 1枚にまとめて報告

- (3)ジュニア・普及委員会  
10月21日(金) 出席3名  
ア)ジュニア登山教室 in 立山の報告書発送について  
イ)中高年安全指導者講習会(東部・西部地区)の報告  
ウ)第7回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の準備状況報告
- (4)遭難対策委員会  
10月26日(水) 出席8名  
ア)英国(MTC)往訪報告  
イ)夏山リーダー資格に関して  
ウ)ISC(Incident Command System)に基づく雪崩捜索救助訓練コースについて  
・カナダからパークレンジャーの講師を招聘して、2/6(月)~9(水)、谷川岳周辺で講習会を実施。定員12名
- エ)積雪期レスキュー講習会について  
・1/27(金)~29(日)、谷川岳(土合山の家周辺)
6. その他の重要事項  
10月6日~10月28日
- (1)第71回国民体育大会  
10月6日(水)~9(日) 於:岩手県盛岡市 八木原会長、國松副会長
- (2)中高年安全登山指導者講習会(西部地区) 10月8日(土)~10日(月)  
於:徳島県 剣山周辺 仙石常務理事
- (3)「Tokyoどこでも競技場プロジェクト」 10月10日(祝月) 於:NHK

- スタジオ中継生放送 尾形副会長
- (4)噴火時等の手引き作成委員会  
10月11日(火) 於:中央合同庁舎 尾形副会長
- (5)UIAA総会 10月11日(火)~19日(水)  
於:イタリア 南チロル 八木原会長、小野寺常務理事
- (6)第77回国体正規視察 10月13日(木)  
於:栃木県壬生町 森下競技部長、西原委員長
- (7)国立登山研修所「登山研修」編集委員会 10月13日(木) 於:JSC会議室 尾形副会長
- (8)世界ユース選手権大会説明会  
10月15日(土) 於:岸記念体育会館 森下競技部長、小日向委員長
- (9)スポーツ&文化 on ワールド・フォーラム 10月20日(水) 於:グランドファイアット東京 尾形副会長
- (10)旭金属工業(株)安八郡工場スピード壁竣工式 10月23日(日) 於:旭金属工業(株)安八郡工場 小日向委員長
- (11)公認スポーツ指導者制度改定説明会  
10月25日(火) 於:岸記念体育会館 蛭田副委員長
- (12)28年度上期決算処理打ち合わせ  
10月25日(火) 於:岸記念体育会館 立元会計士、相良財政担当理事、小野寺常務理事
- (13)顧問懇談会  
10月26日(水) 於:岸記念体育会館 4F特別会議室 各顧問、三役等
- (14)第73回福井国体準備状況打合せ  
10月27日(木) 於:福井県池田町教育委員会 國松副会長、西原委員長
- (15)28年度中間監査  
10月28日(金) 於:岸記念体育会館 4F特別会議室 内藤監事、岡本監事、中島監事、尾形副会長、小野寺常務理事、相良理事

## 寄贈図書

雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ 「岳人」No.834
	(株)山と溪谷社 「山と溪谷」No.980
会報	(株)体育施設出版 「SF月刊体育施設」2016年11月号
	日本トレーニング指導者協会 「JATI EXPRESS」Vol.55
	Corean Alpine Club 「山」Vol.248
	(公財)全日本ボウリング協会 「JBCnews」第540号
	兵庫県山岳連盟 「兵庫山岳」第593号
	(公財)日本体育協会 「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2016年10月31日号
	La rivista del Club alpino italiano 「Montagne360」2016.11
	(公財)日本体育協会 「Sports Japan」vol.28
	(公社)日本武術太極拳連盟 「武術太極拳」No.325
	(公財)埼玉県体育協会 「スポーツ埼玉」Vol.274
	日本勤労者山岳連盟 「登山時報」No.502
	(公財)日本体育協会 「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2016年11月14日号
	korean Alpino Federation 「大山聯」Vol.215
	中国登山協会 「山野」2016 11 総219期
	TJAR実行委員会 武田耕治 TJAR2016大会報告書
	東京野歩路会 「山嶺」No.1041
	(株)ベルカディア モンベルクラブ事務局 「OUTWARD」No.073
	(公社)日本山岳会 「山」No.858
	おいらく山岳会 「山行手帖」No.684
	横浜山岳会 「山」1014号
影山淳(シルクロードクラブ) 「悠久の大地イラン訪問記」ダマバンド峰報告書	

## 編集後記

今年は祝日「山の日」の行事やスポーツクライミングが東京2020五輪大会の追加競技に決まり、慌ただしい1年だった。来年以降しばらくは素早い決断と行動が肝要か。そして足並を揃えることも。来年も登山月報へのご寄稿宜しくお願いします。

(広報担当 水島彰治)

### 登山月報 第573号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成28年12月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
 FAX 03-3481-2395

### NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

### NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
- ・南高尾城山陣馬山セットトレイルレース実行委員会
- ・峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。



## 年間購読がおすすりめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に届きつるります。

通常本紙価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** **→ 7,480円** **1冊分680円**  
(税込8,172円) (税込7,488円) **1冊分無料**



**1月号**  
12/15発売

「岳人」2017年1月号

【特集】  
**植村直己と冒険家たち**

【寄稿】石川直樹「アジアの山に生きる」  
／竹田崇実「オホーツクの村物語」等

通常880円(税込)  
★モンベルのウェブサイトで、全国のモンベルストアで購読可能！

年間購読  
お申し込み方法

●ウェブサイト  
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で (受付時間: 毎週月曜～木曜 10:00～18:00)  
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6438-5797  
※お申し込みの際は、必ずお名前と住所をお知らせください。

●全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp>

初めて、  
という不安。

ここから始まる、  
という希望。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

三井住友海上  
MS&AD  
三井住友海上

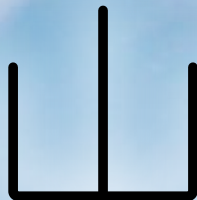
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます